

日本産業衛生学会東北地方会ニュース

みちのく

No.68

12/27

2022

発行/令和4年12月27日・発行所/日本産業衛生学会東北地方会事務局
住所/〒980-8575 宮城県仙台市青葉区星陵町2-1 (東北大学大学院医学系研究科産業医学分野内)
電話/022-717-7874・FAX/022-717-7883・e-mail/sanei-michinoku@doh.med.tohoku.ac.jp・発行人/黒澤 一

第81回日本産業衛生学会東北地方会を終えて

第81回日本産業衛生学会東北地方会 学会長
山形大学大学院医学系研究科 公衆衛生学・衛生学講座
教授 今田恒夫

令和4年度第81回日本産業衛生学会東北地方会は、7月22日～23日に山形市の山形大学医学部飯田キャンパスにおいて、現地+Webによるハイブリッド形式で開催されました。新型コロナウイルス感染症が落ち着いておらず、現地参加者は少ないのではないかと予想していましたが、現地参加75名と多くの方々に参加いただき、現地会場も賑わいを見せていました。Webでの参加28名と合わせて、計103名の方に参加いただき、盛会に終えることができました。改めて、ご参加いただいた皆様に御礼申し上げます。

学会の内容としては、7月22日には、株式会社 いそのボデーでの事業所見学を行いました。当初予定していた懇親会は、大人数での会食が制限されていることから、残念ながら開催できませんでしたが、個人的に山形の地元料理を楽しまれた方も多と思います。

7月23日は、メインテーマ：「ポストコロナ、人口減少社会での産業保健」として、午前中は一般演題13題の発表があり、午後から、総会、特別講演、各部会が行われました。特別講演では、弘前大学大学院医学研究科社会医学講座 井原 一成 教授から、「健康経営と地域・職域での健康づくりについて 青森から発信する」と題して講演いただきました。その後、部会ごとに別会場となり、講演や討議が行われました。産業医協議会では、神田橋 宏治 先生から、「遠隔産業衛生の現状と課題」の講演、産業看護のつどいでは、上谷 実礼 先生から、「アドラー流“勇気づけ”保健指導」の講演をいただき、最新の情報を共有いたしました。

今回、現地会場も設けたことにより、多くの先生方と直接お会いし、お話しする機会が得られました。Webでのやりとりは移動不要の便利な面がありますが、お互いの人となりを知るには直接会うことに勝るものはないと改めて感じました。

最後に、今回の学会の準備・開催は、今回が初めての開催である当講座スタッフだけでは行うことができず、多くの方に助けいただきました。特に、各部会のとりまとめと全体の運営に多大なるご協力をいただきました菅原保先生、河合直樹先生、安藤栄吾先生、森鍵祐子先生、神村裕子先生、山形県の産業衛生関係の方々には大変お世話になり、誠にありがとう

ございました。

また、ここにお名前を上げられなかった方々も含め皆様に心より感謝申し上げます。

今回のメインテーマに、ポストコロナの言葉がありますが、現時点でも新型コロナウイルス感染症はおさまっていません。来年、福島県で本会が開催される頃には、文字通り、ポストコロナの状態になり、皆様にまた直接お会いできることを願っています。

第 82 回 日本産業衛生学会東北地方会開催要項（第 1 報）

メインテーマ：「振り返りから前を向く産業保健 ～困難から導かれる新たな健康戦略」

学会長：福島 哲仁

福島県立医科大学 医学部 衛生学・予防医学講座 教授

1. 会期：2023 年 7 月 21（金）～22 日（土）
2. 会場：コラッセふくしま（福島県福島市三河南町 1 番 20 号）
3. 現地・Web ハイブリッド開催の予定
4. 内容
 - (ア) 事業所見学：7 月 21 日(金)（予定）

阿武隈急行株式会社（福島県伊達市梁川町字五反田 100 番地 1）
 - (イ) 一般講演：7 月 22 日(土)
 - (ウ) 特別講演：7 月 22 日(土)

演者：前田 正治(福島県立医科大学医学部災害こころの医学講座・主任教授)
 - (エ) 総会・役員会：7 月 22 日（土）
 - (オ) 各部会行事：7 月 22 日(土)

産業医部会
産業看護部会
産業衛生技術部会
産業歯科保健部会

産業医部会**産業医部会報告**

医療法人健友会 本間病院

菅原 保

福島県立医科大学医学部衛生学・予防医学講座

各務 竹康

産業医部会員の皆様に会員向けメーリングリストについて、改めてお知らせいたします。

東北地方会部会員の相互交流、情報共有の活性化に向け、2020年より部会員のメーリングリストを立ち上げております。しかしながら、今までその利用は地方会開催時の産業医協議会案内にとどまっておりました。

一方、日本産業衛生学会及び産業医部会では、最近では「化学物質の自律管理」など、今後の産業医活動に大きく関連する情報とそれに対する検討が行われています。つきましては、メーリングリストでのこれらの情報提供を行い、意見交換を行うなど、会員間での情報共有の活性化を考えております。会員の皆様からの積極的な話題提供、情報発信も歓迎いたします。

現在メーリングリストの会員は、産業医部会より配布された名簿に沿って登録しておりますが、google groupの機能を用いているため、一部の方はメールが配信されていない可能性があります。ibukai-michinoku@googlegroups.comからのメールを受信できるよう、設定をお願いします。学会に登録しているメールアドレス以外のアドレスを使用したい、部会員だけがメールが届いていない方は、メーリングリスト管理担当の各務(bamboo@fmu.ac.jp)まで連絡をお願いします。



産業看護部会**産業看護部会報告**

東北地方会 産業保健看護部会 幹事
NTT 東日本 総務人事部医療・健康管理センタ
村越 亜弥子
山形大学大学院医学系研究科看護学専攻地域看護学分野
森健 祐子

今年度、産業看護部会は「産業保健看護部会」と10数年ぶりに名称変更がされ、定義も新しくなりました。皆様ご存じでしょうか。定義の推敲に際しては数年前から、部会内での検討を重ね、学会やパブコメでも広くご意見を頂き、ようやく完成したものです。定義についての詳細は部会HPに掲載されておりますのでご興味のある方は是非ご覧ください。また、合わせてHPのリニューアルや、部会報である広報誌名（今までは「産業看護フォーラム」）の名称変更も検討しております。そして定義変更に伴い、産業保健看護学としての教科書も新たに編纂中です。来年の発行の予定となりますが、こちらも楽しみにお待ちしております。

もう一つ、皆様へお伝えしたい情報として、保健師等の産業保健看護職の法制度化が水面下で着実に進んでいます。現時点で、産業医は法的に守られており事業所への配置が義務付けられておりますが、産業保健看護職は法的には何も後ろ盾がない状態です。来年5月の学会ではこれに関する特別シンポジウムが開かれることになりました。五十嵐部会長や厚労省、法制度委員会の方々が登壇の予定です。興味のある方は是非ご参加いただき、皆で今後の成り行きを見守っていきましょう。

そして最後に、2025年の産業衛生学会が東北の地で開催する事が決定しました。皆様奮ってご参加頂き、皆で一緒に盛り上げていきましょう。



産業衛生技術部会**産業衛生技術部会活動報告**

東北地方会幹事

河合 直樹

本年度の地方会は、地元山形での開催ということで、実行委員に名を連ね、主に工場見学会ならびに技術部会の準備を進めさせていただきました。コロナウィルス感染第7波の影響で懇親会の中止を余儀なくされたことは残念でしたが、皆様のご協力により大過なく地方会を終了できたことを感謝申し上げます。

毎回、技術部会では、主に開催地で活動しておられる工学系のコンサルタントや作業環境測定士などから話題提供をいただき、気軽に情報交換する場を提供してまいりました。

今回は、(株)テトラスの本間直人氏（労働衛生コンサルタント・作業環境測定士）から「アーク溶接ヒュームの個人ばく露測定結果」に関する話題提供をいただきました。実際の現場での測定事例をもとにマンガンの濃度分布や作業条件の変化による影響等について解析した結果について分かりやすく説明していただき、それをもとに活発な意見交換ができました。

「化学物質の自主的な管理」を推進していくため、今後、産業衛生技術部会の一層の活性化が期待されているところです。地方会としては、産業衛生技術部会本部ならびに産業保健総合支援センターなどと連携を密にしながら、中小零細企業での取組みを支援していかなくてはならないと感じています。また、それを担っていく若手人材の育成にも取り組んでいかなくてはなりません。なんか忙しくなりそうな気配をひしひしと感じています。



産業歯科保健部会**産業歯科保健部会報告**

産業歯科保健部会幹事

井川 資英

新たに産業歯科保健部会に入会されました、小村圭介先生のご挨拶を掲載させていただきます。

皆様はじめまして。歯科医師の小村圭介と申します。

私は青森県五戸町で父の歯科医院を継承し、2代目院長として地域歯科診療に勤んでおります。この度は歯科部会の井川資英先生、安藤栄吾先生、伊藤瑠美さんに日本産業衛生学会について教えていただき、歯科保健部会へ入会させていただくことになりました。

私は研修医時代、青森県立中央病院歯科口腔外科に勤務しがん領域の口腔管理や医科歯科連携の重要性を学ばせていただきました。

その後一般開業医の勤務を経て地元に戻郷いたしました。五戸町は高齢化率40%を超える少子高齢化の町ですが多職種連携のもと、地域一丸となって患者さんの健康のお手伝いをしています。

その中で、働き盛りの世代がもっと歯科に関心を持ち、早期の口腔管理を行うことでこれからの長寿時代に楽しく食事ができればと思い、産業衛生分野にも興味を持ち始めました。

現在は東北地区の先生方と月に1回程度、ZOOMによる研修会や情報交換などを行なっています。経験豊富な方々と情報共有させていただき今後の歯科医師人生に役立てていければと思っています。今後とも何卒よろしくお願い致します。



産業歯科保健部会
歯科医師 小村圭介



産業看護とうほく

第41号 2022.12

発行者: 日本産業衛生学会東北地方会
産業看護部会

連絡先: 〒984-8519

宮城県仙台市若林区五橋 3-2-1

NTT 東日本 健康管理センタ 村越亜弥子

発行責任者: 村越亜弥子・森鍵祐子

◎ 第 28 回産業看護のつどい ご報告

2022年7月22日～23日に、第81回産業衛生学会東北地方会が【ポストコロナ、人口減少社会での産業保健】をメインテーマとして、山形大学医学部をメイン会場に開催されました。落ち着いたかに見えたコロナも増加傾向に転じ始め、昨年に引き続いてのハイブリット開催となりました。

7月23日(土)の第28回産業看護のつどいでは、上谷実礼先生(Human Happiness Inc)を山形大学医学部の会場にお招きし「アドラー流“勇気づけ”の保健指導」と題してご講演いただきました。現地参加20名、オンライン参加16名で、看護職に加え複数の医師の方々にもご参加いただきました。

講演では「アドラー心理学の人間知」「よいコミュニケーションとは」「自分自身を勇気づける」など、理論と共に具体的な方法などもご講演いただきました。具体的な技法と態度として、“対象者が自分自身の健康課題に向き合わないのは勇気がくじかれているから”、“支援者である私たちには対象者が勇気づけられる関わりが重要となる”、そして、“その支援者自身も自分自身を褒めてねざらう”、“負ではなく正に注目する”などが紹介されました。参加者からは「自分自身が勇気づけられた」「理論と場面が一致することが多く実感できた」「面談者をほめる、ありがとうと感謝する点が全体に共通していて、相互関係が良くなるのだと感じた」など、今後の保健指導に活かせると大変好評でした。



上谷実礼先生はアプリやメルマガ配信やなど様々なコンテンツでもご活動されております。ご報告しきれない内容も沢山あります。ご興味ある方はぜひご覧になってください。私自身も立ち止まったときには振り返り、今後の活動に活かしていきたいと思っております。

◎ 各県の産業看護部会活動報告 (2022年7月時点)

【青森】

産業保健総合支援センターの研修会は対面も増えており滞りなく実施されている。
県内産業保健の大きな動きはないが、コロナ波も一旦落ち着き、様々な健康イベントも開始され始めている。健診施設においても3年振りにSAS検査の申込者が目立ってきている。県内企業のパワハラ事件が全国レベルで大きく報道され、改めて企業のパワハラ防止対策が注目されている。また、高齢者の事故防止対策も強化されており、労基署も活発に企業への指導が入っている。

【秋田】

- * 秋田県産業看護職の会のメンバーに向けて産業保健に係るメール配信継続中
- * 6/21 20名参加(定員20名) 産業看護職の会限定にて産業保健センター主催で集合研修実施
 - ・運動プログラムについて
 - ・事例検討会(1型糖尿病事例～事業場内の看護職としてなにができるか～)
 - ・交流会

【山形】

- * 山形県産業保健総合支援センター主催の研修会や月一回の産業メンタル研修会は、状況に応じてオンライン・対面で開催されている。
- * 3月より定期的に東北地方会開催に向けて県内会員でオンライン会議を開催した。

【岩手】

産業看護部会様のzoomを使用させて頂き、幹事の方のお力添えにより、対面形式から脱却し、コロナ禍2年ぶりに「産業看護の集い(zoom)」を開催。
従来の対面研修等では多数の書面通知を行い参加者多数であった。今回、少数アドレス把握で、メール案内であったため参加人数は4名であったが、自己紹介も含めお顔を見ながら東北地方会運営会議の情報や、コロナ対応事例など、直接相談でき充実した時間を過ごすことができた。

【宮城】

- * 4/11 仙台産業医学推進協議会 為になる産業保健勉強会 開催
新型コロナウイルス感染症・第6波に関するアンケート・アルコール使用障害との向き合い方
- * 4/25 宮城産業看護職オンライン交流会開催(参加者6名)
キャリアラダーや教育システム、業務マニュアルの有無・SOAP・健康教育アプリ導入
在宅勤務実施状況・大学進学および大学院での学びについて 等をデスクッション
- * 4月より第三金曜日対面にて「勤労者の健康に関するネットワーク」開催 対象：産業保健職
- * 宮城産業看護職 ML にて学会・セミナー情報など定期的に配信継続中

【福島】 会員数12名でインテル(福島産業看護研究会) 自主的勉強会継続中

- * 3月【教育】禁煙指導・5月【実務】社内教育やイベント実施・・・コロナの為メールで情報共有
7月【フィジカル】労災について・・・対面実施予定
- * 産業保健総合支援センターで実施の研修会も対面での実施に切り替えている状況。
研修内容については健康経営、VDT、化学物質管理、大人の発達障害、など幅広く実施している。



【編集後記】

2021年より運営委員になりました。7月の学会では至らない点があったかと存じます。大変お世話になりました。
つながったご縁を大切に活動していければと思っております。
今後ともよろしく願います。(山形：村形祥子)

2022年度 日本産業衛生学会東北地方会選挙結果のご報告

日本産業衛生学会東北地方会選挙管理委員会委員
大河内 眞也

本年度の選挙結果について報告させていただきます。

2022年10月 地方会会長選挙、地方会代議員選挙 10月25日開票

地方会長（1名） 黒澤一

（有権者269名 投票者79名 投票率29.4%：前回より2.4%上昇）

代議員（27名）

青森県：井原一成、千葉敦子

岩手県：坂田清美、澤田智史、田鎖愛理、丹野高三、茂木隆

秋田県：野村恭子

山形県：河合直樹、今田恒夫、菅原保、森鍵祐子

宮城県：荒川梨津子、色川俊也、大河内眞也、小川浩正、黒澤一、齋藤慶史、清治邦章、中村剛、村越亜弥子、森弘毅

福島県：各務竹康、熊谷智広、近嵐修一、福島哲仁、安村誠司

（予備代議員1：森洋、予備代議員2：井川資英、予備代議員3：泉陽子）

（有権者269名 投票者102名 投票率37.9% 前回より8.0%上昇）

2022年12月 地方会理事選挙 12月20日開票

理事（2名） 黒澤一、千葉敦子

（予備理事候補者：野村恭子）

（有権者27名 投票者23名 投票率85% 前回より11%減少）

予備代議員候補者、予備理事候補者の方は、代議員、理事に欠員が生じた場合、繰り上がることとなります。

選挙へのご協力ありがとうございました。



編集後記

第 68 号の発行が年末になりましたことお詫び申し上げます。

今年も残す所、あと 4 日となりました。前回に続きハイブリット形式で開催された今年度の第 81 回東北地方会学会ですが、今田先生並びに、山形大学公衆衛生学・衛生学講座の皆様御尽力によりトラブルなく盛会に終えることが出来ました。心より感謝申し上げます。

宮城県が人口当たりの新規感染者数で全国第一位になるなど新型コロナ感染症第 8 波が全国的に猛威を振るっている現状ですが、行動規制が課せられないまま年末年始を迎えることになりました。来る新年も現在の状況が急に好転するとは思えませんが、新型コロナ感染症に負けることなく、地方会一同、粛々と日々の産業保健活動に専念し、また、更に連携を強めて東北地方会学会等の活動を盛りあげて行きたいと思っております。新たに選出されました代議員の方々を含め今後とも皆様のご協力ご支援をどうぞ宜しくお願い申し上げます。

日本海側の地域では、災害級の大雪が続いている様ですが、皆様、健やかに新年をお迎え下さいますことを祈念しております。

本年は大変お世話になりありがとうございました。来年が東北地方会、そして会員の皆様にとって更なる発展の年となりますことを心よりお祈り申し上げます。(T.I.)